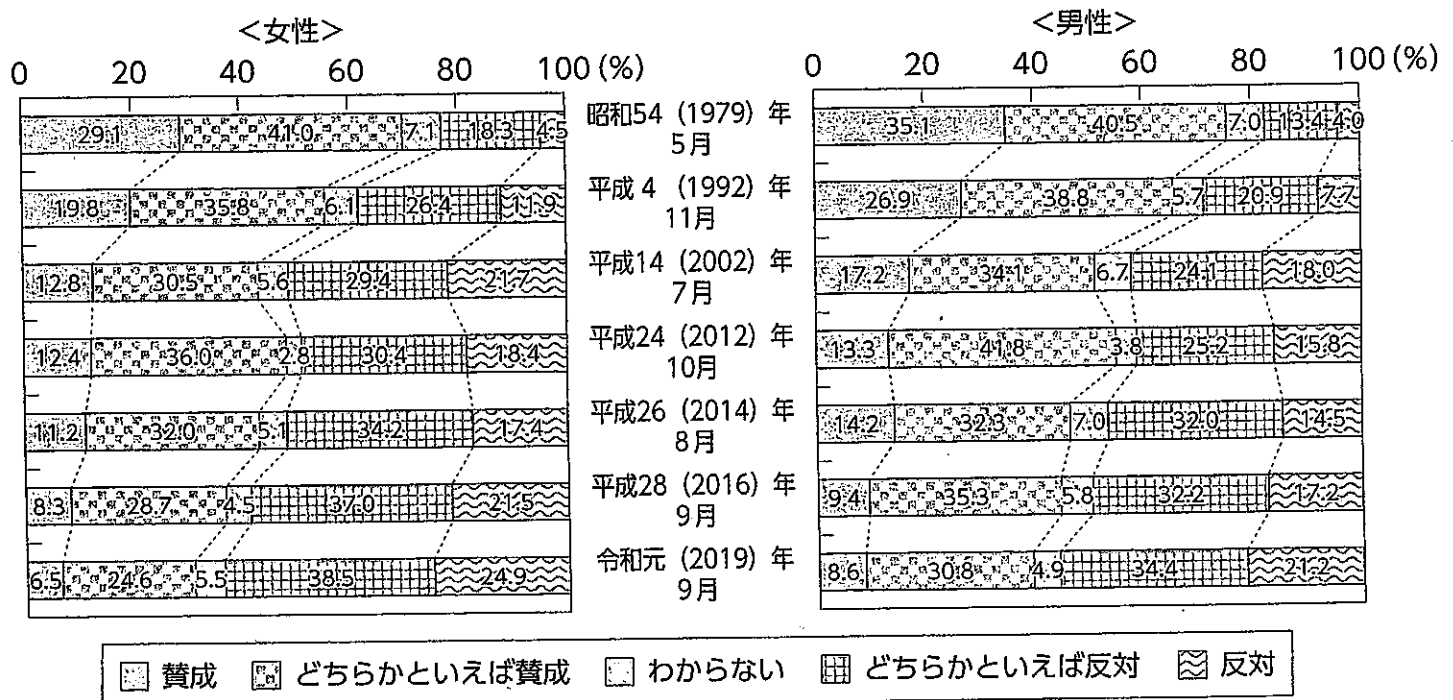


令和三年度 お茶の水女子大学 文教育学部 人間社会科学科 後期日程 小論文試験問題

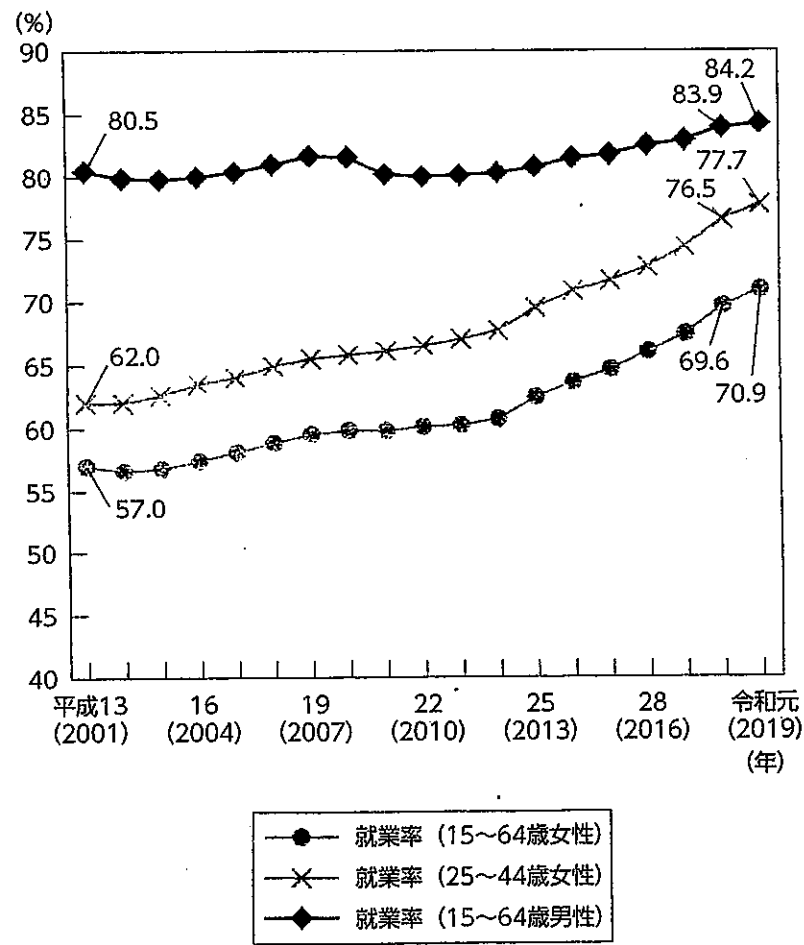
以下に示す図1は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化、図2は15～64歳の就業率の変化、図3は非正規雇用労働者の割合の変化を示しています。この3つの図をもとに、日本の性役割の変化の傾向とそれについて考えたことを論じなさい。(1000字以内)

図1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化 (男女別)



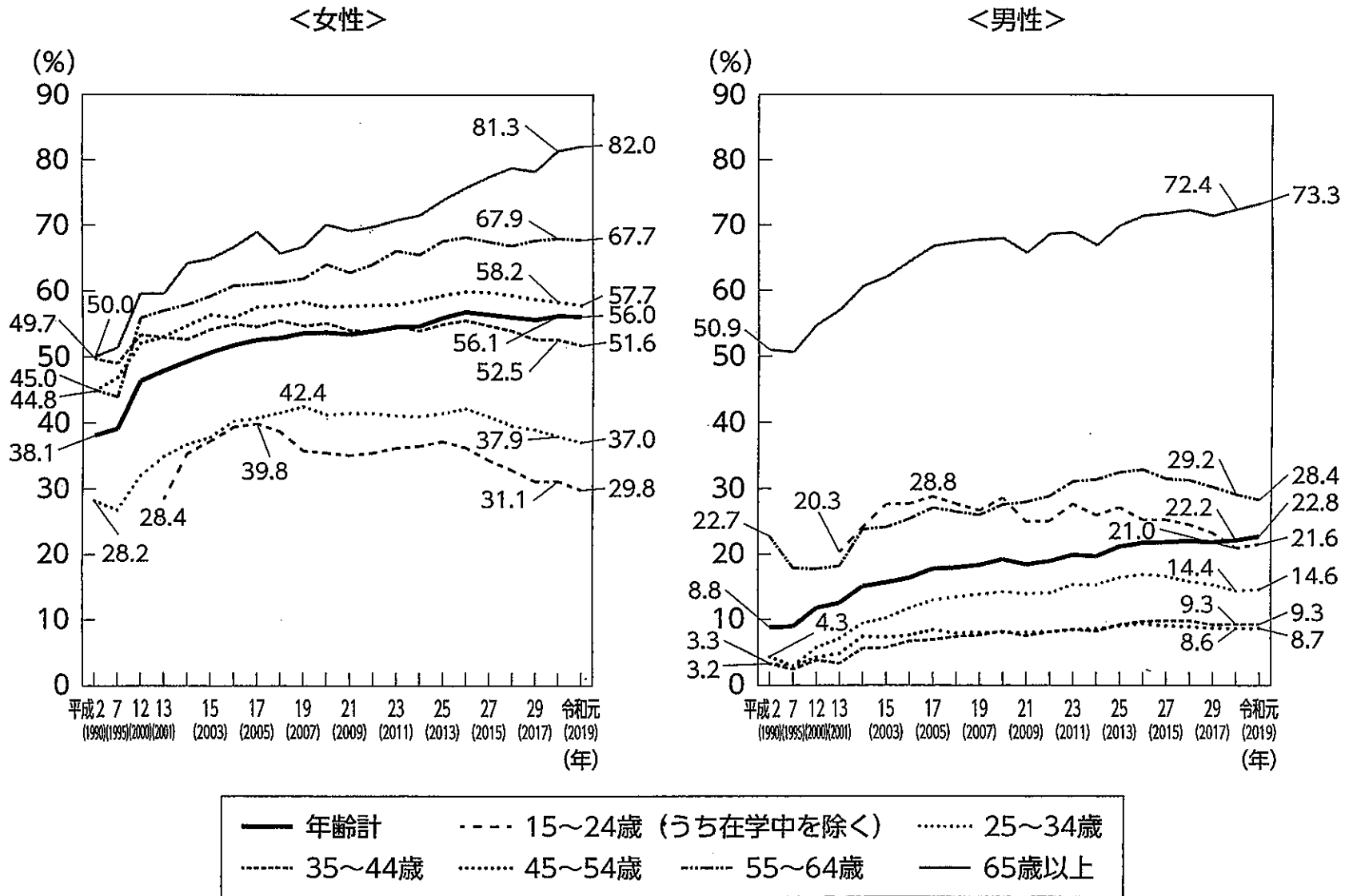
- (備考) 1. 総理府「婦人に関する世論調査」(昭和54年)及び「男女平等に関する世論調査」(平成4年), 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成14年, 24年, 28年, 令和元年)及び「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年)より作成。
 2. 平成26年以前の調査は20歳以上の者が対象。平成28年及び令和元年の調査は, 18歳以上の者が対象。

図2 生産年齢人口（15～64歳）の就業率



- (備考) 1. 総務省「労働力調査（基本集計）」より作成。
 2. 平成17年から28年までの値は、時系列接続用数値を用いている（比率を除く）。
 3. 就業者数及び就業率の平成23年値は、総務省が補完的に推計した値。

図3 非正規雇用労働者の割合の推移（男女別）



- (備考) 1. 平成13年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月)より、平成14年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」(年平均)より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とでは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
2. 「非正規の職員・従業員」は、平成20年までは「パート・アルバイト」、「労働者派遣事業所の派遣社員」、「契約社員・嘱託」及び「その他」の合計、平成21年以降は、新たにこの項目を設けて集計した値。
3. 非正規雇用労働者の割合は、「非正規の職員・従業員」/ (「正規の職員・従業員」+「非正規の職員・従業員」) ×100。
4. 平成23年値は、岩手県、宮城県及び福島県について総務省が補完的に推計した値。